

日本キリスト教会

多摩地域教会月報

【第一号】二〇二三年四月二日

「みことばを遺す」

牧師 大石周平

「ヤコブは息子たちを呼び寄せて言った。

『集まりなさい。わたしは後の日にお前たちに起こることを語っておきたい。ヤコブの息子たちよ、集まって耳を傾けよ。お前たちの父イスラエルに耳を傾けよ。』
(創世記四九章一〜二節)

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、……三日目に復活したこと……その後一二人に現れ……すべての使徒に……そして最後に……わたしにも現れました。……神の恵みによって今日のわたしがあのです」

(コリントの信徒への手紙一 一五章三〜五節)

【多摩地域教会の建設】

三月一六〜一七日に行われた第七二次定期中会において、多摩地域教会の建設に関わる諸件議案が可決されました。直後の常置委員会では教会建設委員を選出。四月二〇日午後二時から、現東京中央伝道所を会場に、「多摩地域教会建設式」を行うことが決まりました。

【礼拝時間の変更】

この四月から、主の日(日曜日)の礼拝時間が変わります。「国立谷保礼拝所」では午前九時半から、「府中中河原礼拝所」では午前一一時半から、それぞれ約一時間です。各地に足場をもつひとつの地域教会として、集まる一人ひとりを互いに覚え、共に主の恵みにあずかってまいりたいと願います。礼拝準備のため、牧師は土曜日に、国立谷保礼拝所に宿泊します。

【聖書の学びと祈りの会】

「祈禱会」と称した集会は、「聖書の学びと祈りの会」と新しく呼称し、木曜日午前一〇時半から行います。ただし、奇数週は府中中河原、偶数週は国立谷保の礼拝所が会場です。

礼拝同様、オンライン参加が可能です。

【新しい聖書と讃美歌】

礼拝で用いる聖書は、四月から「聖書聖書協会共同訳」(二〇一八年)を用います。また讃美歌は、それぞれの群れで用いてきた歌集を中心に、「讃美歌」(一九五四年版)、「讃美歌二」(二〇一〇年)、「ユネーヴ詩篇歌などを収めた『みことばをうたう 改訂版』(二〇二〇年)を併用します。それぞれ新しいものは、印刷して配布します。

【新しい礼拝式次第】

本報に添えた四月の礼拝予定(訂正版)をご覧ください。以下に礼拝式次第について簡単に説明します。

―礼拝の三部構成―

礼拝の流れは基本的にこれまでと変わりません。礼拝は三部から成り、それぞれ「主の御前に心を高く上げよう」・「主の御言葉に心を傾けよう」・「主の御業に心を尽くして応じよう」と見出しをつけました。

―招きのことば―

礼拝は、主のご臨在のもと、御言葉の招きをうけ、心を高く上げることから

始まります。ご起立の上(困難な方は座ったままで)、顔を上げてください。司会者が、聖書を朗読し、挨拶をのべて、礼拝全体の主題を提示します。なお、四月の礼拝の大きな主題は、「福音の共観(ハーマニー)」とします。

―讃詠／讚美

応じて会衆が、主の御名を讃える「讃詠」をささげます。礼拝を通じて、讚美歌は顔を上げて主を仰ぐと同時に、教会に集う会衆どうしが顔を合わせる喜びも覚えながら歌います。なお、長い讚美歌は、節を分けて歌うこともありま
す。全体として、礼拝最初の「讃詠」と最後の「頌栄」のみ、曲の終わりに「アーメン」を歌います。つまり、その他の讚美歌の「アーメン」は省略します。そうして礼拝全体が、ひとつの神讚美の行為となるよう意識します。

―罪の告白と赦し、そして讚美へ

これまで府中中河原では、説教前の祈禱のなかに「罪の告白」と「赦しの宣言」そして「聖霊の照明を求める祈り」の三つの要素をすべて含み入れていま

した。四月からはそれらの区別が明確になるようにします。

「罪の告白と赦し」においては、『みことばをうたう 改訂版』の翻案詩を用いて、「十戒」や「詩篇」を交読するか、一六世紀の旋律でそれをそのまま歌唱します。「交読」とは、司会者と会衆が御言葉を交互に声に出して読み、共に祈る朗誦です。主の御前に自らの罪を知らされ、立ち帰って告白し、主の赦しへの確信へと導かれてまいります。続く「讚美歌」も、同じ思いで歌います。が、「十戒」や「詩篇」を歌唱する場合は、一曲省略されることもあります。

―聖書(朗読)

ここで、お座りください。『聖書 聖書協会共同訳』より、礼拝主題に関わる旧・新約聖書の御言葉を、牧師(教師)ないし長老が朗読します。

―聖霊照明の祈りと讚美

聖書朗読後の祈禱および讚美は、聖霊の照明を求めるものであり、「説教は神の御言葉」だと信じる者が、語り手である主に向かう心を示すものです。御言葉の説き明かしをする者と、二礼拝

所およびオンラインを通して集まり聴く者たちに、聖霊の炎が灯されるように、そしてその光と熱に心を満たされた一人ひとりに、時になつて御旨が示されるようにと祈ります。

―説教／二礼拝所で共観する福音

説教は神学的な訓練を受けた牧師か、小会の責任において牧師の委託を受けた長老によって行われます。四月から、牧師による「共観福音書による説教」が始まります。共観福音書とは、マタイ・マルコ・ルカの三福音書を指し、イエスの御言葉と御業について、共通の伝承に触れながら、強調点を異にして伝えるものことです。説教では、最古の福音書であるマルコの福音書の流れに基本的に従いながら、講解説教を行います。説教の前半は二礼拝所共通のメッセージ。後半は、国立谷保ではマタイの強調点、府中中河原ではルカの強調点に注目します。礼拝後、ふたつの礼拝所の説教を印刷してお配りする予定です。

―こどもも大人も、もろともに聴く

なお、四月から「こどもの説教」と「大人の」説教」の区別はなくなり、

どの世代にも伝わるひとつの説教を目指します。といっても、幼児語で語るのではありません。たとえばシェイクスピアの劇は、多様な登場人物が語る群像劇であることによって、子どもは子どもなりの楽しみ方をし、大人は大人としての受け止め方ができる作品です。

聖書もまた、多層の声また声がひびく歴史語りや預言や詩歌、次世代に向けた教えのなかで、神の御心が示される「多声の交わりの一書」(マルティ)であることを思うとき、たとえばいくらか説教の中に、ある人にとっては難しいと感じる言葉が織り交ぜてあったとしても、全体としては子どもたちにも福音が分かる、という礼拝体験が起こされます。易しい言葉を用いながら、しかし聖書の世代を越える豊かさや力強さを失わないよう、説教者として訓練されてまいりたいと願います。

―遺言として語り伝える

私たちの礼拝では、とくに意識して、子どもを礼拝所の真ん中に招き入れたと思います。説教者としては、ヤコブやモーセ、サムエルやダビデ、そしてイ

エスが次の世代に向け、生涯最期の「告別の辞」を語ったように、次の世代に遺すべき言葉を伝えたいと考えています。

牧師は今年四四歳。ボンヘッファーやキング牧師が亡くなったのは三九歳でした。宗教改革者ツヴィングリが、戦死するのは四七歳です。会衆の多くの方々にとって、未熟で若い牧師かもしれません、当人としては、「主の御心であれば、生き永らえて、あれやこれやのことをしよう」(ヤコブ四・一五)と考え、いつも三〜五年で死んでも良いという意識で説教壇に立ってきました。高齢になると、「生涯の日を正しく数える」(詩編九〇・一二)ことは、だれにも切実な問題となると聞きますが、信仰者にとっては、すべては私たちの計画ではなく、神の経綸によるのですから、世代にかかわらず「今が終わりの時」として、常に切実なのです。

牧師の説教はその意味で、いつも次世代にむけた「遺言」の性格を持ちます。おのずと、説教者は、次世代に遺すべきと信じる福音の言葉に集中せざるをえない。そもそも旧・新約聖書は「テスタ

メント＝遺言としての契約」と呼ばれてきました。「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです」とパウロが言っているとおり、牧師自身、先達から受けてきた最も大切なことを、子どもたちに伝えて死にたいと考えています。遺言の証人として礼拝に集う皆さんも、同じ福音を受けた一人として、家庭や地域で語り遺す言葉を、求めていただければと考えています。

―公告ととりなしの祈り

説教後の祈りに先立ち、これまで礼拝後に行ってきた公告を行います。公告は、単なる報告ではなく、共通の祈りの課題として公示されるものだからです。公告をふまえた祈りは、御言葉への感謝を示すとともに、御言葉への応答としての私たちの新しい生き方を確認しながら、同時に「とりなしの祈り」として捧げられます。礼拝に来ることができない方や、弱く小さくされている人々のための祈りであり、また社会や国家における正義と和解、平和のためにとりなす祈りです。

―讚美（感謝の応答）

主の恵みに対する感謝の思いを尽くし、歌をもって応じて御名を讃えます。ご起立を。同じ恵みに満たされた一人ひとりの顔も見て、共に主に従い生きる喜びを共有する時でもあります。

―信仰告白

聖餐が執行される週は「ニカイア（＝コンスタンティノポリス）信条」、その他では「使徒信条」を告白します。古代信条以来の教会の告白的伝統に連なり、私たちの神信頼と教会的な信を、公に言い表すためです。なお、洗礼・信仰告白がなされる礼拝では、式のなかで、使徒信条をそのうちに含む「日本キリスト教会信仰の告白」を告白するために、この部分が省略されることがあります。

―聖餐と十戒／讚美

お座りください。見えない神の御言葉の目にみえるしとしての聖餐は、聖霊において、主イエス・キリストの確かな現臨のもとで行われる聖礼典です。主の十字架による一度限りの犠牲によって、私たちの罪が贖われたことを示すとともに、教会の交わりが、神の王国

の祝宴をあらかじめ示すものでもあります。イエスは今、天におられ、神の右に座しておられますが、私たちは聖餐の交わりをおして心を高く霊的に天にまで引き上げられつつ、地にあつてはキリストの体の交わりを兄弟姉妹と共に喜びます。そうして感謝のうちに、キリストが共におられる共同体形成が実現します。

聖餐の司式は牧師が執り行います。

配餐は、長老のみが行ってききましたが、新しく任職する予定の執事たちが、その奉仕の中心を担い、牧師・長老と共に聖餐礼拝の大切な役割を果たすことが、本来的にふさわしいことです。

なお、聖餐の後の讚美は、聖餐にあずかった喜びと感謝の思いをもって捧げるものです。とくに四月からは、感謝の応答として、神と人とを愛する生活へと送り出される私たちの生の指針となる「十戒」を交読するか、歌うことも実践したいと考えています。

―聖餐の頻度と会員制度

聖餐は、毎月第一主日に執り行う予定です。また、クリスマス、イースター、

ペンテコステと洗礼・信仰告白の行われる主日にも特別に執行されます。制度上、洗礼を受けた人だけがこれに与ることができません。ただし、未陪餐会員や未受洗者が礼拝から疎外されるしるしでは決してなく、むしろいずれ一緒に祈りするための招きの場であり、共に祈りを合わせる機会とお覚えください。

―献金と献身（奉献者の祈りを含む）

従来「献金」と呼びならわしてきたものは、むしろ「奉献」と呼ぶべき礼拝の大切な要素です。どのように呼びびならわすにせよ、ここでは「献金」だけでなく、「献身」をもって感謝のしるしとすることが強調されます。

会衆代表による祈りの際には、ご起立ください。奉献の祈りを担当する会衆代表は、説教の要約やとりなしの祈り、司式者の欠けを補う祈りをする必要はありません。御言葉への感謝をもって、群れの献身の思いを表明します。

―主の祈り

礼拝への「十戒」の導入が、今回の礼拝改革のひとつの肝ですが、それによって「三要文」が、「使徒信条・十戒・

主の祈り」という改革教会の大切にしてきた順番で、礼拝に位置付けられます。主の祈りは、伝統的に感謝の応答としての生の中心に据えられます。

— 頌栄／讚美

頌栄とは、三位一体の神の御名にすべての栄光を帰すほめ讃えの歌です。

「主を讃えよ／世々とこしえに／アーメン」という定型句で旧約聖書の『詩編』が五区分されているとおり(四一・一三、七二・一九、八九・五三、一〇六・四八)、あらゆる告白も感謝も含めて神への栄光讚美に方向付ける「頌栄」の伝統は、聖書に由来します。なお、宗教改革者カールヴァンは『みことばをうたう』にも収められる「シメオンの歌」を礼拝最後に歌い、主と出会ったからには今死んでも良い、と告白していました。私たちも毎週の礼拝の締めくくりというだけでなく、生涯の終わりにこそ歌う栄光の讃歌として、生かされる限りこれを大切に、あらゆる時の区切りごとに歌いたいと願います。

— 派遣と祝福

かつて「祝祷」と呼ばれてきた祈りは、

私たちの祈りであるより先に、主による祝福の宣言です。また、礼拝終わりの「祝福」に先立って、礼拝の場から送り出される私たちに、世への「派遣」(宣教命令)の言葉も添えられます。「平安のうちに行きなさい。希望と喜びのうち、主に仕え、すべての人に神の愛を伝えなさい。主イエスは世の終わりで、あなたがたと共におられます」。この言葉は、せひ、目を開き、取り次ぐ牧師の顔を見ながらお聴きください。

祝福としては、ソロモン王のようにもろ手を挙げた牧師によって、旧約聖書「アロンの祝福」(民数六・二四―二六)か、新約聖書「使徒的祝福」(二コリ一三・一二)の御言葉が取り継がれます。祈りの姿勢をとり、目を閉じて聞く伝統は、御顔の光が照らす場面で民が示した主への恐れと御言葉への感謝を深く表します。終わりに一同声を合わせて「アーメン」と応答します。

— 奏楽

奏楽者がいない場合は先唱者が必要ですが、当面は司会者がその任を負います。奏楽者のいる礼拝では、「前奏」

「後奏」と呼びならわされたオルガン演奏が前後に伴いますが、そのうちに礼拝は始まり、終わるものであり、礼拝の外に位置付けられるものではありません。礼拝開始時間になり始める「始まりの奏楽」の五〜一〇分前には席につき、心静かに主に向かい備えましょう。「終わりの奏楽」のうちに一週歩みは始まります。立ったまま厳かに聴くにせよ、座るにせよ、また奏楽のなかで出口まで送り出されるにせよ、その響きが、会衆一人ひとりがこれから歩む、主に従う道の励ましとなりますように。

【長老・執事のつとめ】

長老・執事のつとめと役割、奉仕の実際については、新しい小会・執事会が形成され次第、ご報告します。ここでは礼拝に関わることのみお知らせします。今後は、小会と執事会それぞれから、会計担当者が立てられます。礼拝直後の献金集計に始まり、教会のための実務を負ってくださる礼拝所ごとの執事のため、そして長老や牧師のためにご加禱ください。

すべては、ただ主の栄光のために。

4月の予定

日	月	火	水	木	金	土
4/2 午前 9:30/11:30 主日礼拝 (受難週 に入る) 府中 礼拝後 定期小会+執事会(合同)	3 【牧】 午後 6:00 日本聖書神学校 始業礼拝	4	5 【牧】(午前) 青山学院大学 (夜間)日本 聖書神学校 講義開始	6 府中 午前 10:30 聖書の学び と祈りの会	7	8
9 午前 9:30/11:30 復活主日礼拝 府中/国立 礼拝後 イースター感謝会 ※ 毎月第二主日午後2時からの 恵泉伝道所礼拝への応援は、 5月から再開されます。	10 【牧】 明学新学期開始 午後 1:00 日キ神学校入学式 始業講演 (説教)久野牧(北海道) (講師)佐藤泰将(大森)	11 【牧】 日キ神学校 研修会 講師会	12	13 国立 午前 10:30 聖書の学び と祈りの会	14	15
16 午前 9:30/11:30 主日礼拝 府中 礼拝後 地域教会建設委員会 兼牧師招聘委員会(最終回)	17	18 【牧】 日キ神学校 講義開始	19	20 府中 午前 10:30 聖書の学び と祈りの会	21	22
23 午前 9:30/11:30 主日礼拝	24 【牧】 富坂キリスト教センター 運営委員会	25	26 【牧】 午前 10:30 青学チャペル 礼拝奉仕	27 国立 午前 10:30 聖書の学び と祈りの会	28	29
30 午前 9:30/11:30 主日礼拝 国立 午後 3:00 多摩地域教会建設式 含; 牧師就職式/長老・執事任職式 (司式) 栗田英昭(多摩ニュータウン永山) (勧告) 富永憲司(柏木) (奏楽) 栗田麻子(多摩ニュータウン永山)	5/1	2	3	4 府中 午前 10:30 聖書の学び と祈りの会	5	6
【牧】 式後 中会青年担当委員会	<p>○ 礼拝、聖書の学びと祈りの会、多摩地域教会建設式は、オンライン(Zoom)参加も可能です。</p> <p>○ 聖書の学びと祈りの会では、しばらく「宗教改革の信仰告白」をとおして、聖書を学びます。会場は奇数週が府中中河原礼拝所、偶数週が国立谷保礼拝所となりますので、ご注意ください。</p> <p>○ 牧師面会日は府中木曜日午後、国立土曜日が基本となりますが、要相談。ご一報ください。 牧師(【牧】)の出講日は以下のとおり——(毎週)月曜: 明治学院大学(戸塚)、火曜: 日本キリスト教会神学校(川越)、水曜: 青山学院大学(淵野辺)・日本聖書神学校(目白)</p>					

2023年4月	2日 受難週	9日 復活主日 礼拝	16日	23日	30日
<p>多摩地域教会 国立谷保礼拝所</p> <p>礼拝時間： 午前9時30分～ 午前10時30分</p>	<p>司式・説教： 牧師大石周平</p> <p>聖書：長谷部一郎 配餐：深田 和子 奉献：川上 琴子</p>	<p>司式・説教： 牧師大石 周平</p> <p>聖書：川上 俊武 配餐：戸田 賢三 奉献：久國 聖子</p>	<p>司式・説教： 牧師大石周平</p> <p>奉献：深田 成之</p>	<p>司式・説教： 牧師大石周平</p> <p>奉献：深田 和子</p>	<p>司式・説教： 牧師大石周平</p> <p>奉献：相葉 寛子</p> <p>※ 午後3時 (於国立谷保) 多摩地域教会建設式</p>
<p>主のみに 心を高く上げよう</p> <p>招きのことば* 讃 詠 / 讃 美* 罪の告白と赦し* 讃 美*</p> <p>主のみことばに 心を傾けよう</p> <p>聖 書 朗 読 聖霊照名の折り 讃 美* みことばの説教 とりなしの折り</p> <p>主のみわざに 心を尽くして応じよう</p> <p>讃 美* 信 仰 告 白* 聖 餐* 十 戒 / 讃 美* 十 献 金 と 献 身* 主 栄 の 祈 り* 頌 栄 / 讃 美* 派 遣 と 祝 福*</p> <p>(* → 可能であれば起立)</p>	<p>(受難週に入ります)</p> <p>【讃21】 83：1～2 交読「十戒」 1～6 【讃21】 155：1</p> <p>マタイによる福音書 1：1～17 【讃21】 155：2 「ダビデの子キリスト」</p>	<p>(イースターおめでとう)</p> <p>【讃21】 83：1～2 交読「十戒」 1～6 【讃21】 18：1</p> <p>マタイによる福音書 1：23 【讃21】 18：2 「イソラヌエル～ 神は私たちといっしょに」</p>	<p>マタイによる福音書 3：1～6 【詩篇】 98：3 「天の国は近づいた」</p> <p>【讃21】 83：1～2 交読「詩篇42」 【詩篇】 98：1、2</p>	<p>マタイによる福音書 3：13～17 【讃】 198：2 「これは私の愛する子」</p> <p>【讃】 83：1～2 公読「詩篇42」 【讃】 198：1</p>	<p>マタイによる福音書 4：1～11 【讃】 195：2 「パンだけでなく、神の 一語一語の言葉で生きる」</p> <p>【讃21】 83：1～2 公読「詩篇42」 【讃】 195：1</p>
	<p>【讃21】 155：3～4 ニカイア信条 聖餐執行 交読「十戒」 7～13 【讃21】 24</p>	<p>【讃21】 18：3、4 ニカイア信条 聖餐執行 交読「十戒」 7～13 【讃21】 24</p>	<p>【詩篇】 98：4、5 使徒信条 — — 【讃21】 24</p>	<p>【讃】 198：3～4 使徒信条 — — 【讃21】 24</p>	<p>【讃】 195：3～4 使徒信条 — — 【讃21】 24</p>

・ 讃美歌は『讃美歌21』（【讃21】1997）を主に用いますが、『讃美歌』（【讃】1954年）と『みことばをうたう改訂版』（【詩篇】2020）からも選曲します

2023年4月

多摩地域教会

府中中河原礼拝所

礼拝時間:

午前 11時30分～
午後 0時30分

2日 受難週

司式・説教:

牧師大石周平

聖書: 奥野玲子

配餐: 玉山美保子

奉献: 後藤さち子

大石 紘子

9日 復活主日礼拝

司式・説教:

牧師大石 周平

聖書: 後藤 俊文

配餐: 奥野 玲子

奉献: 玉山美保子

鹿又美保子

16日

司式・説教:

牧師大石周平

聖書: 奥野玲子

後藤さち子

23日

司式・説教:

牧師大石周平

聖書: 後藤俊文

玉山美保子

30日

司式・説教:

牧師大石周平

聖書: 大石紘子

村上 恵

※ 午後3時 (於国立谷保)

多摩地域教会建設式

主のみに
心を高く上げよう

招きのことば*

讃 詠 / 讃 美*

罪の告白と赦し*

讃 美*

主のみことばに

心を傾けよう

聖 書 朗 読

聖霊照明の祈り

讃 美*

みことばの説教

とりなしの祈り

主のみわざに

心を尽くして応じよう

讃 美*

信 仰 告 白*

聖 餐*

十 戒 / 讃 美*

献 金 と 献 身*

主 の 祈 り*

頌 栄 / 讃 美*

派 遣 と 祝 福*

(*→可能であれば起立)

(受難週に入ります)

(イースターおめでとう)

【讃】 5 4 6

交読「十戒」1～6

【讃】 3 0 1 : 1

【讃】 5 4 6

交読「十戒」1～6

【讃21】 1 8 : 1

【讃】 5 4 6

交読「詩篇42」

【詩篇】 9 8 : 1、 2

【讃】 5 4 6

公読「詩篇42」

【讃】 1 9 8 : 1

【讃】 5 4 6

公読「詩篇42」

【讃】 1 9 5 : 1

ルカによる福音書
1 : 1～4

【讃】 3 0 1 : 2

「神の子キリスト」

ルカによる福音書
2 : 10～14

【讃21】 1 8 : 2

「この方こそメシア」

ルカによる福音書
3 : 1～6

【詩篇】 9 8 : 3

「神の救いを見る」

ルカによる福音書
3 : 21～22

【讃】 1 9 8 : 2

「あなたは私の愛する子」

ルカによる福音書
4 : 1～13

【讃】 1 9 5 : 2

「悪魔がまた現れる
時が来るまで」

【讃】 3 0 1 : 3～4

ニカイア信条

聖餐執行

交読「十戒」7～13

【讃21】 1 8 : 3、 4

ニカイア信条

聖餐執行

交読「十戒」7～13

【詩篇】 9 8 : 4、 5

使徒信条

—

—

【讃】 1 9 8 : 3～4

使徒信条

—

—

【讃】 1 9 5 : 3～4

使徒信条

—

—

【讃】 5 3 9

【讃】 5 3 9

【讃】 5 3 9

【讃】 5 3 9

【讃】 5 3 9

・讃美歌は『讃美歌』（【讃】1954年）を主に用いますが、『讃美歌21』（【讃21】1997）と『みことばをうたう改訂版』（【詩篇】2020）からも選曲します